

2月も後半に入り、沈丁花のつぼみも色づいてきました。日によって寒暖の差はありますが、確実に春が近づいているのを感じます。昨秋、「この冬は暖冬になる。今誰もがコロナと戦って苦しい思いをしている分、気候は穏やかで過ごしやすくなる」とどこかで読んだ記憶があり、本当にそうだった、と感じています。とはいえ、東北や上信越地方では記録的な大雪で大変な被害を受けたり、先日も東北で大きな地震があったりで、穏やかではない冬を過ごす方も多くいらっしゃいます。その方たちのためにもお祈りしたいと思います。

今年は年が明けて間もなく緊急事態宣言が発令され、教会のミサも再び中止となりましたので、おおみや教会通信は1月号を発行することができませんでした。2か月ぶりの発行となり、分量が多くなりましたが、休み休みゆっくりお読みください。

<信徒委員会からのお知らせ>

・共同墓地の祝福

昨年12月19日(土)午前11時より、川越墓地に新設した当教会の共同墓地を主任司祭の谷神父様に祝別していただき、運用を開始しました。

今回はコロナウィルス感染症対策のため、納骨者の御親族と墓地委員5名だけに参加を絞らせていただきましたが、当日納骨はありませんでした。

・新年度の各専門部の部長は紙版のおおみや教会通信に掲載しておりますので、ご覧ください。または各地区委員さんにお尋ねください。よろしく願いいたします。



・さいたま教区よりピオ十世会の集会に関するお知らせがありました。

ホームページにリンクを掲載しましたので、よくお読みになり、ご注意ください。

・コロナ禍食料支援送料等献金についてのご報告

昨年11月より、コロナで失業され収入の途絶えた方のための食料支援を、大宮教会信徒会として実施してまいりました。皆様からは、お米、パスタ、うどん、インスタントラーメン、レトルト食品、缶詰など、沢山のご寄付をいただき、また送料として赤い貯金箱に献金も入れていただきました。ありがとうございました。

この活動はこれからも継続していきたいと思いますが、献金について、これまでの収支をご報告させていただきます。

2月14日時点の集計済み献金額の合計は83,780円、支出は45,172円、残高38,608円となっております。明細はリストのとおりですが、これまで宅配便でダンボール7箱分を発送しました。またクリスマス時には、近隣のホームレスの方への支援として携帯用カイロとドーナツを購入、配布させていただきました。

当初は、宅配便の送料のための献金でしたが、食料そのものの購入に充てて欲しいと言われ献金して下さった方も多数おられ、想定以上の金額が集まりました。そこで昨年末に、最も困っているところにお届けしたいと考え、教区事務局長や谷神父様とも相談し、カトリック教会外ではありませんが、本庄市にある大恩寺(通称ベトナム寺)に30,000円を支援金として届けてきました。(写真は、大恩寺の庭から見た景色。日の丸、ベトナム国旗、仏教の旗がたくさんはためいていました)

(次ページに続く)



この寺院は、マスコミ等でも報道されていますが、職を失い明日の生活にも困っているベトナム人技能実習生の駆け込み寺となっており、寄付による食料で共同生活を営んでいるお寺です。お寺の責任者の尼僧もベトナム人で、同胞の支援にあたっておられます。私が伺ったときも30人程の実習生がいましたが、半分くらいの方は翌日または翌々日に帰国の途につくとのことでした。実習生にとっては、道半ばにしての不本意な帰国であろうと思います。技能実習制度について、個人的には思うところが多々ありますが、実習生の失踪が社会問題の一つとなっている

ることからも、彼らの立場が極めて弱く、不安定なものであることは間違いのないと思います。なお、今後もこのお寺に住まう実習生を支援するかどうかは未定です。

緊急事態宣言期間中は公開ミサが行われず、献金や食料の寄付もままならない日が続いていますが、ミサ再開に合わせ、支援活動も再開するつもりであります。谷神父様は四旬節メッセージで「断食」「祈り」「施し」の精神を勧めておられます。この活動は、支援対象者だけのためではなく、私たちのためにもなるのだと思います。皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

信徒会長 石黒智泰

コロナ禍における食料支援送料等献金収支報告書

2021年2月14日現在

カトリック大宮教会信徒委員会

年月日	明細	収入	支出	差引
2020/10/20	宅配便(¥1620X2 個)		3,220	-3,220
2020/11/7	献金	54,397		51,177
2020/11/8	宅配便		1,750	49,427
2020/12/13	宅配便 (¥1,190+¥1,410)		2,600	46,827
2020/12/18	ホームレスの方へ携帯カイロ 150 個		2,735	44,092
2020/12/24	ホームレスの方へドーナツ		2,047	42,045
2020/12/27	献金	29,383		71,428
2020/12/27	大恩寺(本庄市)に寄付(ベトナム人実習生支援)		30,000	41,428
2021/1/27	宅配便(¥1410X2 個)		2,820	38,608
			残高	38,608

< 帰天された方 >

広報誌「たかはな」と「教会だより」を昨年はお休みしていたため、昨年(2019年12月~2020年12月) 帰天された方をお知らせしておりませんでした。おおみや教会通信の紙版に掲載しておりますので、ご覧下さい。

改めて故人を偲び、天国で安らかに憩われることをお祈りいたします。

「切支丹の人間味に惹かれて」

若いころ、目新しい切支丹の情報が入ると、どこへでも駆けつける好奇心があった。今思えば、学術的なものは二の次で、禁教令下に生きた巷の切支丹の人間味に惹かれたのかもしれない。数十年前に出会って（現地を訪れて）、歳月とともに、より身近に感じるようになった切支丹は数え切れない。次の話を思い出してくださる方がいれば幸いである。

☆東庵（江戸イルマン養成所卒、鬼石、足尾、沼田方面を伝道）の
3人娘（養女の長女ひゃく、次女おま、三女満里）

正保元年（1644）、幕府は切支丹探索で、父親の東庵を発見できず、代わりに「切支丹の子供を本人と同罪に見なす」と。ひゃくは江戸の牢に25年間、おまと満里は沼田牢に29年間入牢を余儀無くされた。放免後、ひゃくは出生地足尾に帰郷、その後の行方は知れず。おまは娘くにと夫の半三郎のもとに帰宅し、3年後に病死する。満里は夫の四郎右衛門がすでに再婚していたので帰る家がなかった。真田藩の監視下25年間ひとり暮らし、75年の生涯を閉じた。沼田では、禁教令下の元和2年（1616）、切支丹に寛容であった2代目城主真田信吉が就任して、東庵の潜入やフェルナンデス神父の伝道などの活動が活発になっていた。川場村（沼田）の吉祥寺には、東庵と娘3人の面倒を見たと思われる名主八右衛門と妻いせの墓碑がある。この2人のそばに満里の墓も苔むして佇んでいた。

☆花見を許された遊女朝妻

「改宗すれば、直ちに自由の身にしてやる」。「私は切支丹として死にとう存じます。遊女の身で神様のために命を全うすることができるとは、何たる光栄なこと！お役人様、お願いがございます。この世の別れに桜見をさせていただきとう存じます。あと1ヶ月もすれば花が開きます。それを見納めとう存じます」。

江戸末期、吉原桐梅屋の遊女、朝妻は花見を許されて後、喜んで処刑された。

朝妻の美貌と人柄は評判で、仲間の中には妬む者もいた。朝妻はつづらの中に切支丹具（ロザリオやメダイなど）をしのばせていた罪で捕らえられた。彼女には身に覚えのないことだった。朝妻は切支丹牢で、はじめて神様の名前を聞いたのだ。

ある秋の日、朝妻の山荘の碑を訪ねた。東京・大和町の蓮華寺境内の片隅で落ち葉に埋もれていた。昼なお薄暗く、懐中電灯を照らして碑文を読みとった。

〔妓朝妻なる者あり 死罪に当たる 獄辺の櫻樹を指し 獄吏に告げて曰く
花に及んで死するを得ば恨みなしと 官之を憐み花開くを待ちて刑す
後其樹を呼んで朝妻櫻と為す〕

北区 福島

* 投稿を募集しております。FAX か郵送で受け付けております。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 カトリック大宮教会
おおみや教会通信係 ☎048 - 641 - 2935 FAX048 - 641 - 2724